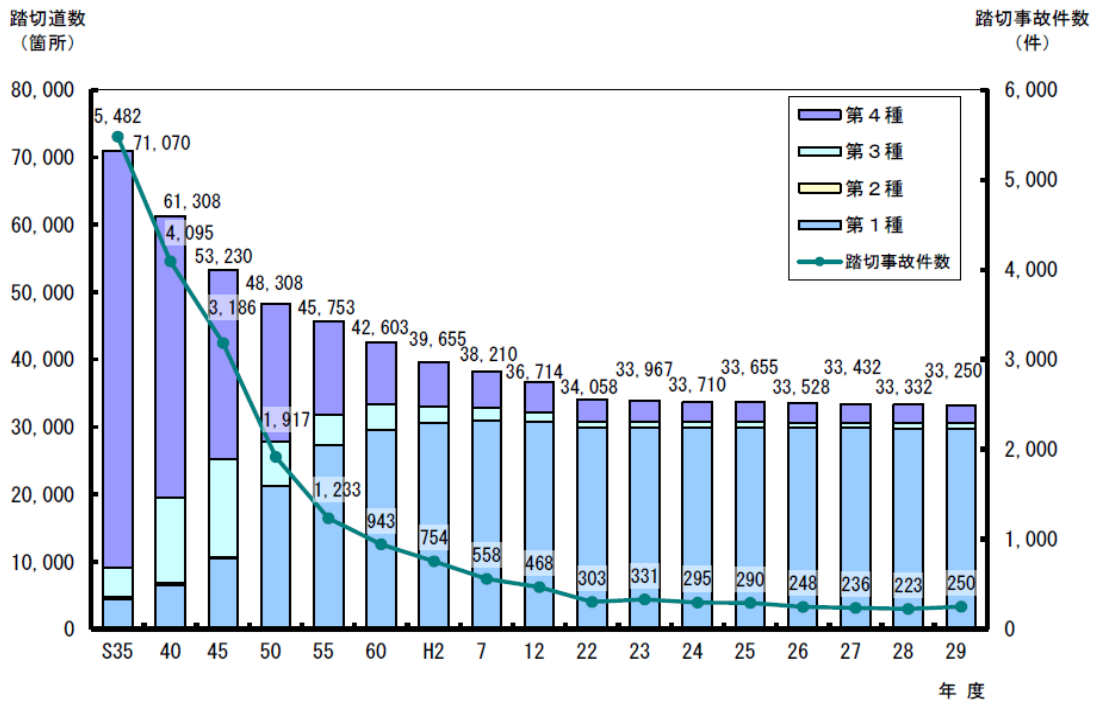


1. 踏切道数の推移 (国土交通省鉄道局資料より)

○ 立体交差化や統廃合による踏切道数の減少や第1種踏切道（遮断機あり、警報機あり）への改良等の踏切保安設備の整備等が進められてきたことにより、踏切道の総数は減少してきましたが、近年は、ほぼ横ばいとなっています（**図1**参照）。



※ 横軸については、昭和35年度～平成22年度は5年間隔、それ以降は1年間隔

(出典：国土交通省鉄道局「鉄軌道輸送の安全に関わる情報」)

図1 踏切道数と踏切事故件数の推移

【参考】 踏切の種別

〈第1種踏切〉



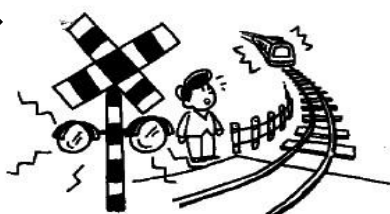
踏切警報機、踏切遮断機が設置されているか、または踏切保安係が配置されている

〈第2種踏切〉



一部時間帯のみ踏切保安係が踏切遮断機を操作するもの
(現在はありません)

〈第3種踏切〉



踏切警報機と踏切警標がついている

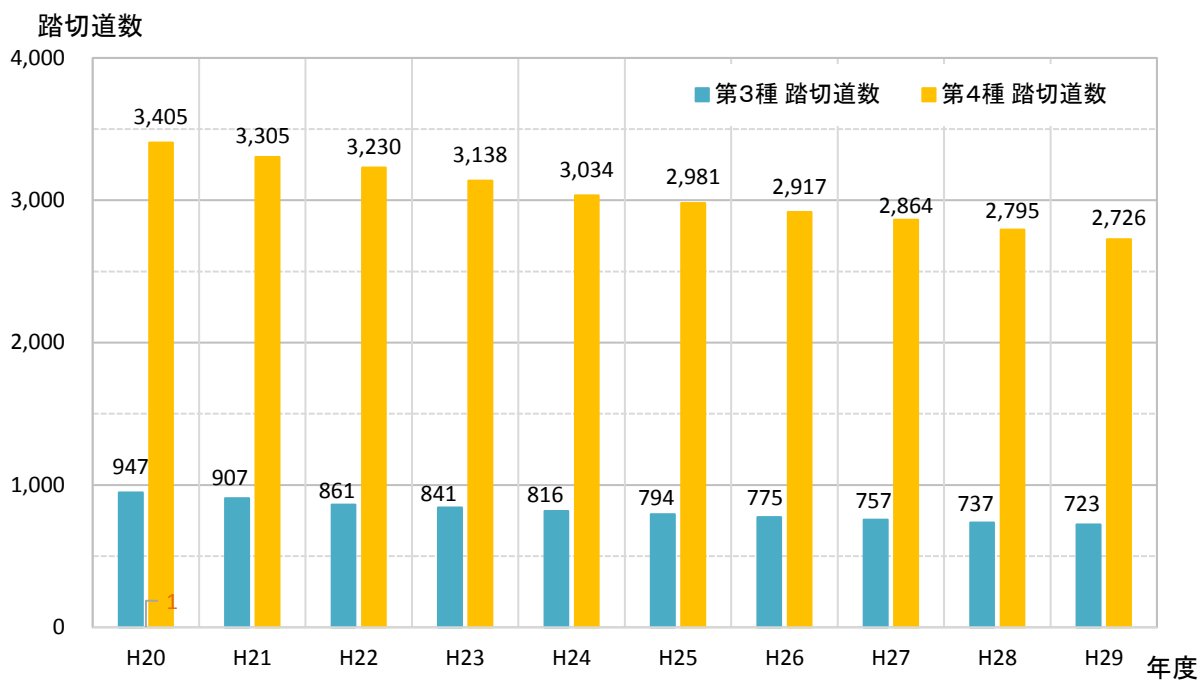
〈第4種踏切〉



踏切警標だけの踏切で、列車の接近を知らせる装置は無い

出典：一般社団法人日本民営鉄道協会「大手民鉄の素顔」(2018年10月)

- 平成20年度から平成29年度までの第3種（遮断機なし、警報機あり）・第4種（遮断機なし、警報機なし）の踏切道数の推移を見ると、踏切道数の減少ペースは鈍化しており、平成29年度末においてそれぞれ723箇所及び2,726箇所が未だに残っています（**図2**参照）。



（出典：国土交通省鉄道局「鉄軌道輸送の安全に関わる情報」）

図2 第3種・第4種踏切道数の推移

- 第3種・第4種踏切道が廃止や第1種化でどれくらい減少したかを、平成28年度末と平成29年度末の比較で整理したところ、第3種踏切道は、廃止と第1種化がほぼ同数、第4種踏切道は、廃止の数が多い状況です（**表1**参照）。

表1 平成29年度における第3種・第4種踏切道数の減少数

踏切種別	第3種	第4種
平成28年度末 (a)	737	2,795
平成29年度末 (b)	723	2,726
減少数 (a-b)	14	69
うち 廃止	6	41
第1種化	7	16
廃線	1	12